

北聖会通信

ドクターに聞く！評判の漢方治療

?

2013年10月14日

わたしがお答えします！

医療法人 北聖病院
漢方内科部長 後藤 博三 先生



【ホルモンバランスの崩れが引き起こす心と身体の不調】

いつも足腰が冷える、手先が冷たい、顔がほてっているのに下半身が寒いといった慢性的な冷えは、不定愁訴と呼ばれる心身の不調の一つ。冷えは頭痛や腰痛、肩こりなど他の不調を伴うことも多く、人によっては仕事や家庭など日常生活に支障が出るほど深刻な症状の方もいます。

冷え性は若い方や男性にもありますが、特に40～60歳代の女性、いわゆる更年期を迎えた女性に起こることが多いようです。これにはホルモンバランスの変化が大きく影響しています。

女性は更年期になると卵巣機能が低下し、エストロゲンというホルモンの分泌が低下します。すると脳の中枢にある視床下部が指令を出し、下垂体から卵巣を活性化させる卵胞刺激ホルモンが分泌されます。この刺激が強すぎると付近にある自律神経系に影響し体調不良の一因になると言われています。

【漢方医学では自覚症状がある限り異常と捉える】

冷え性のような更年期特有の症状は、西洋医学中心の見方では異常所見が明らかになることはごくわずか。そのため、つらい症状があっても病気として捉えてもらえない場合もあります。

これに対して漢方治療は「気・血・水」、つまり「心（気）が身体（血と水）に影響を及ぼす」という考え方が基本。患者さんの自覚症状を優先した治療なので、たとえ検査値に異常がなくても有効な治療薬を処方することができるのです。



このため患者さんの診察には十分な時間をかけ、望診（見る）、聞診（音やにおい）・問診（病状聴取）・触診の四診を通して症状を捉えていきます。特に問診では200項目以上あるチェックシートを使い、症状の背景にある生活習慣や食習慣、ストレスの度合いなどを分析し、最適な漢方薬を処方します。（*すべての医師がこのような診察方法を行うわけではありません。）

【「体質だから」とあきらめずまずは専門医の診察を】

冷え性に使用する漢方薬は「のぼせ冷え」「手や足先の冷え」「足腰の冷え」「全身の冷え」の4タイプで大きく分けています。

例えば、冷えとめまいがあり、尿が少ないという30代女性には「真武湯」、冷えと肩こりがひどく、生理不順という40代女性には「当帰芍薬散」というように、患者さんの体質や年齢、他の合併症状なども含めて総合的に診断し、最も効果的な適応薬を選びます。1日の中でも、違う漢方薬を使い分けることで、単独で使う以上の効果が期待できるのも漢方治療ならではの特徴です。「冷え性は体質だから」とか「サプリを飲めばいい」といった自己判断は禁物です。冷え性の裏には思わぬ病気が隠れていることがあるかもしれません。不調を感じたら、早めに専門医の診察を受けるようにしましょう。

資料：北日本新聞（平成24年9月26日）より抜粋

～ 広報より ～

お問い合わせは、下記まで。

☎：076(441)5910



北聖会では、通所介護、訪問介護、訪問看護等の在宅福祉サービスを行っています。また、障害福祉サービスとして、ヘルパー、同行援護、移動支援の対応も行っておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。